

喜多方市 農業委員会だより

第6号

平成28年3月

編集発行

喜多方市

農業委員会

☎ 0241 (24) 5255



次代を担う子供たち

高郷小学校における「いのちを育てる」農業科実践



農業委員
佐藤 健一

本誌では、平成19年度からスタートした管内小学校の農業科における子供たちの活動を毎回紹介しています。

今回は、高郷小学校

(佐藤明校長)の活動を紹介します。全校生82名のうち四六年度の53名が農業科の活動として、5月20日に農業支援員さんの指導を受けてコシヒカリの苗を手植えし、9月28日に稲刈りをして、自然乾燥のため、はぜ掛けをしました。

また、一三年度の29名も、生活科として上級生同様に野菜(トウモロコシ、トマト、サツマイモ等)を育てました。

このような活動の中、収穫を楽しみにしていたトウモロコシが、収穫寸前に小動物の被害に遭ってしまい、大変ショックを受けたようです。自らの手で育て収穫し、食べるまでには色々なことがあることを経験しました。収穫できた喜びを感じた子供たちは、11月12日に全校生が収穫したコメで収穫祭を実施しました。

子供たちが、生活科や農業科の学習の中から自ら学び解決する力を育成できるように、これからも微力ながら農業委員会として、支援していきたいと思えます。

育てる・
収穫する・
食する

本市農業が

抱える問題

市長に建議6項目を提出

依然として、農業情勢は厳しさを増すなか、本市農業委員会は、27年11月25日に市長公室において、農業施策に関する建議書を市長に提出しました。建議書の内容については、左記のとおりです。

- ① 農業委員会組織の強化に関すること
- ② 新規就農者、担い手・後継者への支援
- ③ 米の風評被害対策の更なる強化
- ④ 放射性物質への農業技術対策
- ⑤ 遊休農地の解消と中山間地農家への支援
- ⑥ 国・県道、市道、一級河川等の適正維持管理



市長へ建議を手渡す原会長

「担い手育成プロジェクト1000」

岐阜県海津市



岐阜県就農支援センター前で

農業委員会では、10月27日～29日の日程で富山県魚津市農地水環境組織、岐阜県就農支援センターを視察研修して来ました。

国は、農業従事者の高齢化と農村人口の減少という課題の解決に向け、持続可能な力強い農業の実現を目指しています。しかし、新規就農者数は年間3千人ほどに留まっています。

このような中、岐阜県では、2014年度から2016年度までの3年間に新たな担い手を1千人育成することを目標とした「担い手育成プロジェクト」に取

り組んでいます。

今回訪問した海津市「岐阜県就農支援センター」は「トマト独立ポット耕栽培システム」による冬春トマトの担い手育成研修事業を行っており、毎年定員は4名。研修生1人に3棟(9a)のハウスを担当します。独立ポット栽培のため病気の拡散は無く近代的な設備で、10月下旬から翌年6月までの9ヶ月間研修し、研修終了後は20aで、60トンの収穫量を目標とし就農していきます。

農地についても、斡旋を受けられる制度がありますが、施設費が6千万円12年間のリース事業を活用しますので、リース代返済など多額の初期費用もかかります。一大決心で半端な考えではできません。それでも応募者数は多く、選拔された方々でした。

岐阜県の取り組みは生産技術、資金、研修、農地取得など経営定着に向けて一貫した支援体制の整備を行い、行政・JA・生産者が担い手育成の仕組み作りを全県下に繰り広げ普及を図っておりまして、担い手育成プロジェクトはスタートして2年を経過しましたが、更に加速したい考えでありました。(齋藤誠一委員)

ふくしまの農業復興と創生 に向け 第60回県下農業委員大会



県下大会会場にて

27年11月5日、福島市パルセイイざかにおいて、第60回福島県下農業委員大会が開催されました。県農業会議会長(太田豊秋氏)より挨拶後、当委員会の五十嵐信幸職務代理者が情報活動功労農業委員として、全国農業会議所会長表彰を受賞しました。

そして、左記議案4件を審議し、全会一致で採択されました。

① ふくしまの農業・農村の発展に向けた農業政策について

② TPP交渉に関する要望について

③ 農業委員会系統組織の強化について

④ 新しい農業委員会法の下での活動推進に関する申し合わせ決議について

地区だより

若手就農者を育てる

慶徳町



出荷前のタラの芽と大川原さん

慶徳町巻地区に会津農匠(株)を設立した大川原義男さん(60歳・喜多方地方指導農業士会長)は、水稻(12ha)、ハウス夏秋きゅうり(55a)アスパラガス(10a)、ソバ(2ha)、身不知柿(5a)、タラの芽育成圃場(1.5ha)、雪ノ下キャベツ(10a)、

小松菜(3.5a)等、一年間を通して農業経営を行っています。

特に、主力である夏秋きゅうりは1万箱以上、冬場のタラの芽は8千パック以上の出荷販売をしています。従業員は、50歳代を2名、20代前半の若者5名採用し、若手就農者の指導育成に努めている会社です。

「何よりも地域の活性化と多くの若手就農者を育てたい」と熱く話されています。

中山間地域にある当地区も更に、年々耕作放棄地が増えている中、タラの木の育成圃場、ハウスきゅうりの拡大により耕作放棄地の解消にも力を入れております。

今後は、更に生産・販売の強化推進を図り、目標である六次化産業事業に参入できる取り組みを思案しているそうです。

(豊子光喜委員)

白鳥が舞い降りる水田

塩川町



水田に群がる白鳥

これは、農業の有する「多面的機能発揮の促進に関する法律」に基づく環境保全型農業直接支払交付金の取り組み事業です。

この事業に取り組んでいるのは塩川町源太集落で、かがみの里生産組合(代表平田恭一さん)に話を伺いました。制度の概要は、「地球温暖化防止に効果の高い営農活動」と「生物多様性保全に効果の高い営農活動」の中から各一つの活動を組み合わせたというものです。元々源太集落は畜産農家が多く堆肥は個人で散布していたものの、この事業の趣旨に沿って11名で約40haの面積をまとめ、堆肥散布を組合全体で行い冬季2か月間水張をするということです。

この取り組みは、27年度から新たに始まった事業で、具体的な結果はまだ出ていませんが、新しい試みに向けた事業に意欲を感じられました。

色々な事業のある中で、農林課と農業委員会を活用し、難しい稲作経営を向上させて行きたいものです。

(大堀美栄子委員)

会津縦貫北道路を喜多方へ向かう途中に、白鳥の湖を思わせる光景が目に入ります。水を張った水田の中に、何十羽もの白鳥が餌を啄んでいる様子は圧巻です。

全国農業委員会

会長代表者集會に参加して

27年12月3日、全国農業会議所主催の代表者集會（一千人参集）が都内で開催され、会長代理として参加してきました。農地の利用集積をテーマとしたパネル討議を行い、28年4月の改正農業委員会法施行に向け、農地利用最適化の取組みと「情報活動」の一層の強化の申し合わせ決議を行いました。また、政府並びに国会への政策提案として、①農業・農村の再構築に向けた基本農政の確立と施策推進に関する要請決議。②TPP交渉の大筋合意を踏まえた要請決議を採択しました。

26年の集會は、農業委員の「公選制」の廃止を巡って、多くの反対意見や会長責任を問うなどの激しい集會でしたが、一転今回は、穏やかな大会でした。

また、集會前段に「県選出の国会議員への要請集會」があり三項目の要請と二項目の要望を行ってきました。

【要請】

- ①東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故並びに関東・東北水害からの復興・復興について
- ②福島県農産物の安全性確保と風評被害対策について

農業委員会法の改正

Q：いつから、何が変わるのですか。

A：平成28年4月1日より。

【主な改正点】

農地等の利用の最適化の推進

- ・担い手への農地利用の集積推進
- ・耕作放棄地の発生防止、解消の推進
- ・新規就農、企業等の農業参入の支援

農業委員の選出方法

公職選挙法から市町村長が議会の同意を得て任命する

農地利用最適化推進委員の設置

農業委員会は、農業委員と伴に地域で活動する推進委員を委嘱

変わるんだあ。



（五十嵐信幸職務代理者）

【要望】

- ①TPP交渉に関する要望
- ・国会決議との整合性について
- ・国内対策について
- ②農業委員会系統組織の強化
- ・農業委員会の体制の整備・強化について
- ・都道府県農業委員会ネットワーク機構の体制強化について

③平成28年度に向けた農業政策について

一人ひとりの農業者を応援する 農業者年金



後継者に経営移譲して 年金を受給している皆さまへ

後継者に、使用貸借した農地（特定処分対象農地）は、第三者に売ったり貸したりすると年金が支給停止となります。

使用貸借10年以上経過した時に、同じ後継者に再び使用貸借設定または所有権移転をすれば、特定処分対象農地として取り扱われなくなります。詳しくは、農業委員会へご相談ください。

編集後記

農業委員会だよりを発行して3年目、年2回発行して現在第6号目になります。県農業会議情報コンテンツにおいて、過去5回発行して第3号と第5号について優良賞等を受賞しました。このプレッシャーの中、更に充実した情報をと編集委員一丸となり、精いっぱい編集しました。

委員長 齋藤 誠一
副委員長 木戸 賢治
委員 長谷川 庄次
委員 佐藤 健一
委員 豊子 光喜
委員 大堀 栄子
委員 原 一

購読して
みませんか？

全国農業
新聞

「全国農業新聞」

全国農業新聞は、農政の動きや農業経営と暮らしに役立つ情報が満載です！

- 発行…毎週金曜日
- 購読料…月額700円
- 申込み…お近くの農業委員まで